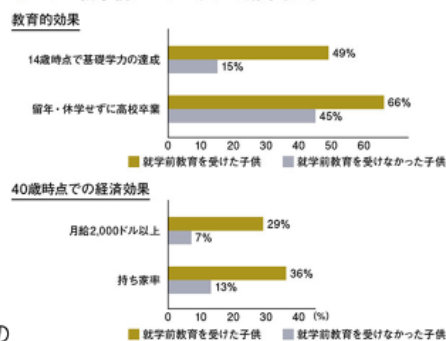


【資料】

1. 幼児教育の重要性 その1

1. ペリー-就学前プロジェクト・・・
幼児教育・保育への公共投資が、経済的・教育的に
国の経済成長にとって有効である。
(シカゴ大学、J・ヘックマン教授 「幼児教育の経済学」
・アメリカ)
2. アベセダリアンプロジェクト・・・5歳までの幼児期の教
育が、大人になっても影響する。 (イギリス)
3. 小学校との滑らかな接続を目指した就学前算数教育の
必要性 (松尾七重教授 千葉大学)

●ペリー-就学前プロジェクトの効果 [表1]



出典：『幼児教育の経済学』（ジェームズ・J・ヘックマン 著、大竹 文雄 解説、吉草 秀子 訳／東洋経済新報社）

「乳児期とともに幼児期は大事」という考え方はどの国でも認識され、5歳児の教育・保育をどのような内容にすれば、その後の子どものよりよい発達につながるかは、欧米に限らずこの国でも議論になっている。

2. 幼児教育の重要性 その2

1. ジャクソンとスカモンの発育曲線・・・図1
人間の脳と神経の成長は3歳で80%が、
6歳で90%が完成し、12歳でほぼ成長を終える
2. ベイレイの知能発達曲線・・・図2
同じ様な形を描いており、脳と神経の成長と知識の
発達は密接な関係にある。

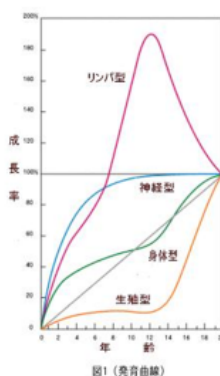


図1 (発育曲線)

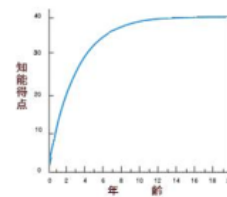


図2 (知能発達曲線)

知識の詰め込みだけなら6歳以降でも努力次第で出来るが、考える力、創造する力、解決する力を育てるには3歳までの環境で80%、6歳までの環境で90%が決まる。

3. 現状の課題

1. 保護者・・・

- ・「子どもに算数が得意になってほしいと思っている」90%以上（2015年幼児さんすう総合研究所調べ）
- ・何が起きるか分からない「未来」に対してどのような育て方をしたらいいのかわからない。
- ・STEM教育など、理数系教育の大切さは理解できるかそのアプローチ法がわからない

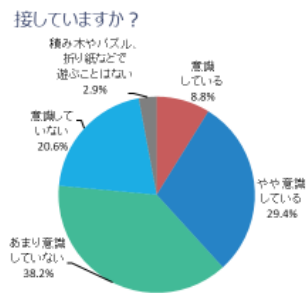
2. 教育現場・・・

- ・**保育従事者における理数系教育への苦手意識**
例：数学検定三級（中学3年修了レベル）合格者20%（公益財団法人日本数学検定協会調べ）
 - ・**専門知識を持った指導者不足**
- 保育の中にどのように「教育」を取り入れていいのかわからない。 小学校の前倒し（プリント学習）のみ。

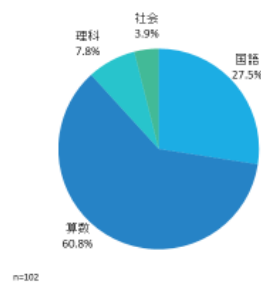
- ※ 失敗を恐れる子供、自信のない子ども、学ぶ楽しさを知らない子どもが増える。
- ※ 10歳で、算数が嫌いな子どもの割合が算数好きの子どもの割合を上回る（2013年2月ベネッセ教育総合研究所調べ）
- ※ 課題解決力、創造力、発信力がない。その結果、理数系の応用力が弱い。（2012年PISA型調査）

参考資料 （保護者の意識調査）

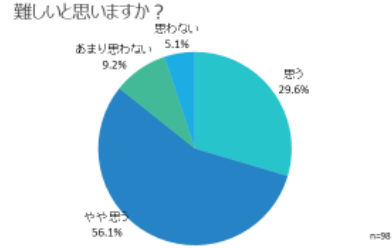
4. 積み木やパズル、折り紙で遊ぶ際に、「算数」を意識して接していますか？



5. 子どもが小学校に入って、好きになってほしいと思う教科は



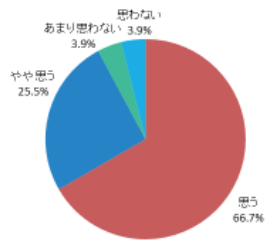
6. 子どもの能力を引き出したり向上させるためにどのように接したらいいかわからない、難しいと思いますか？



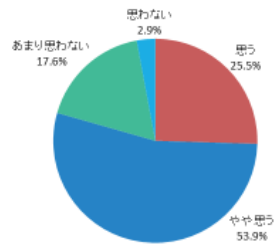
「幼児期の算数に関するアンケート」調査概要
 調査対象：全国の年々少～年長の子供がいる母親
 調査時期：2016年1月 サンプル数：102名
 調査実施：（株）マーケティングジャンクション

参考資料 (保護者の意識調査)

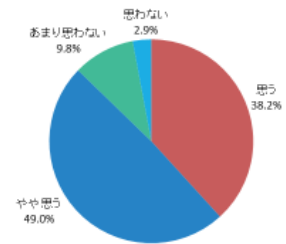
1. 自分の子どもには、算数が好きになってほしいですか？



2. 子どもが小学校で算数を学ぶ前に、幼少期に何か準備をしておいた方がいいと思いますか？



3. 積み木やパズル、折り紙で遊ぶことは小学校算数の基礎となる概念の育成につながると思いませんか？



n=102